

令和7年11月11日（火）
魚津市

富山労災病院に対する新たな支援について

1 支援要請及びその背景

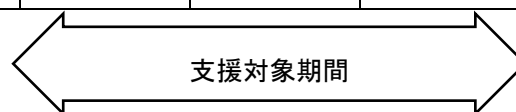
(1) 令和7年10月31日（金）に富山労災病院の運営母体である、独立行政法人 労働者健康安全機構（以下「機構」という。）が来庁され、近年の物価や人件費の高騰、コロナ禍以後の受療行動の変化による受診者等の減少などの影響により、富山労災病院の経営が悪化し、多額の赤字を抱える状況となっており、機構の運営も厳しいことから、抜本的な経営改善に取り組まなければ富山労災病院の存続が難しい状況となっているとの説明を受けました。

(2) 機構からは、富山労災病院の経営改善に向けた抜本的対策として、病床機能の転換及び病床削減を実施することで赤字幅を縮小し、令和11年度には黒字基調へ転換することを目指す「病床機能転換計画」の提示を受けました。

(3) 黒字化を見込む令和11年度までの3年間においては、約11億円の赤字が見込まれ大変厳しい状況となることから、富山労災病院の存続を図るために、地元の自治体である魚津市に対して、令和8年度から令和10年度までの3年間で、赤字見込みのうち大規模な投資的経費5億円を除く6億円について新たな財政支援の要請がありました。

2 富山労災病院の年度収支状況 (千円)

区分	R 6 (実績)	R 7 (見込)	R 8 (計画)	R 9 (計画)	R 10 (計画)	R 11 (計画)
収入①	4,991,285	4,985,173	5,034,599	5,117,193	5,175,158	5,281,693
支出②	5,563,323	5,448,988	5,376,642	5,283,173	5,772,846	5,262,957
差額 ①－②	△572,038	△463,815	△342,043	△165,980	△597,688	18,736



※R10の支出には、投資的経費である電子カルテの更新費用5億円が含まれているとのことです。

3 病床機能転換計画（概要）

【富山労災病院】

R 7	高度急性期 5床	急性期 190床	回復期 52床	合計 247床
R 8	高度急性期 5床	急性期 103床 (△87床)	回復期 103床 (+51床)	合計 211床 (△36床)

4 魚津市の今後の対応

- (1) 魚津市では、これまでも富山労災病院を地域の中核病院として支援してきており、今後とも魚津市民にとって無くてはならない医療機関であると考えています。
- (2) 今般の機構からの新たな支援要請に対しては、経営再建までの3年間の赤字として見込まれる11億円のうち、大規模な投資的経費5億円を除く経費について、6億円を上限として支援を行うことが必要であると考えています。
- (3) 今後の地域医療に対する必要な支援を実施するため、魚津市として新たな組織体制を整備することが必要であると考えています。

【参考】

1 富山労災病院の概要

診療開始	昭和33年 5 月
診療科	内科、外科、整形外科、脳神経外科など 21科
病床数	247床（高度急性期：5床、急性期：190床、回復期：52床）
救 急	魚津市急患センター（19:00～22:00）（1次救急） 2次救急
透析治療	魚津市内唯一の透析治療実施機関
健康審査	健康診断部
労働災害	アスベスト疾患センター
がん治療	富山県がん診療地域連携拠点病院（県指定）

2 富山労災病院が担う地域医療

（1） 一日平均入院患者数（魚津市：80%、新川：10%、その他：10%）

令和5年度	令和6年度	令和7年度(4月～8月)
177.3人/日	178.8人/日	183.0人/日

（2） 一日平均外来患者数（魚津市：75%、新川：14%、その他：11%）

令和5年度	令和6年度	令和7年度(4月～8月)
478.3人/日	484.7人/日	463.5人/日

（3） 救急搬送件数（約8割が魚津市）

令和5年度	令和6年度	令和7年度(4月～8月)
139.8件/月	131.8件/月	139.6件/月

（4） 高度医療シェア（新川医療圏）

急性心筋梗塞（カテーテル） （R5.10～R6.3）	労災：5件 20.8%	黒部：19件 79.2%	その他：0件
がん（手術、放射線、化学） （R4.4～R5.3）	労災：334件 23%	黒部：1,003件 69%	その他：112件 8%